

高野参詣道(五)

本号では、平成二十八年三月号に引き続き、高野参詣道についてご紹介します。白岩丹生神社からの主要な高野参詣道は、小川中村を経て小川上野の薬王寺へと至ります。

薬王寺は浄土宗鎮西派の寺院で、もとは来蓮寺と称する大きな寺院でしたが、兵火によって焼失し、その後現在地へ移されたと伝えられています。国の重要文化財に指定されている観音堂は、貞和三年(一三四七)の建立とされ、堂内には平

安時代から室町時代に至る多くの仏像が安置されています。また、観音堂の前にはホルトノキがあります。ホルトノキは常緑の落葉樹で、その名は江戸時代の学者、平賀源内がオリーブの木と勘違いし、「ポルトガルの木」



と呼んだことに由来するとされます。県内では、ホルトノキの大樹は少なく、町指定文化財になっています。

参詣道は、薬王寺から小川吉田方面へと進み、吉田の地藏堂・大師堂へと至ります。地藏堂は、壁のない開放的なお堂であり、参詣道を行き交った先人たちも一時の休息に立ち寄ったことでしょう。その後参詣道は、吉田橋へと至ります。吉田橋のたもとは、明治一六年(二八八三)に建てられた道標があります。高さ二一五センチメートルの角柱で、正面には「奉納四国西国秩父坂東供養塔」「右高野山、左西ヶ峯かまなか」と刻まれており、四国・西国・秩父・坂東の各観音霊場への巡礼成就と供養を願い建立されたものと考えられます。

※お詫び／5月号の当ページ本文1行目に「杉野原区野班」と記載しましたが、正しくは「杉野原区」です。